



# ジェー ドーム J-DOME ニュースレター

創刊号



日本医師会かかりつけ医診療データベース研究事業

## 1. ごあいさつ

先生方におかれましては長引くコロナ禍の中、多大なご尽力を賜り深く感謝申し上げます。また、日本医師会が推進するかかりつけ医診療データベース研究事業、通称 J-DOME へのご協力に心より御礼申し上げます。

J-DOME は昨年秋より対象疾患を糖尿病と高血圧の両疾患に拡大し、生活習慣病症例のリアルデータとしてその意義を高めております。これを機にニュースレターを発行し、先生方の日常診療に関わるトピックや情報を、タイムリーにお伝えしていきたいと存じます。ご高覧くださいますと幸いです。

かかりつけ医診療への理解を高めるとともに診療のさらなる向上を目指すために、引き続き本研究事業へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 日本医師会  
会長 中川俊男

◇ 本号では、野田光彦先生と勝谷友宏先生からそれぞれ糖尿病と高血圧のトピックをお届けします。

## 2. 糖尿病チーム

国際医療福祉大学市川病院 教授 野田光彦 (J-DOME 研究会議座長)

糖尿病と薬剤—インスリン発見 100 年に際して新旧薬を回顧・展望する

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が蔓延するなか、いかがお過ごしでしょうか。日医総研の J-DOME からの最近のリサーチエッセイ ([https://www.jmari.med.or.jp/research/essay/wr\\_721.html](https://www.jmari.med.or.jp/research/essay/wr_721.html)) では、今回の感染症に由来すると考えられる通院回数の減少は血糖管理の悪化 (HbA1c の上昇) に繋がりがうることが示唆されており、この方面でのさらなる知見の集積が必要であると考えています。

さて、糖尿病や生活習慣病の治療の根幹に食事療法と運動療法があることはまさにそのとおりですが、約 30 年前に高コレステロール血症の治療がスタチン製剤の登場によって大きく変わったことは私の記憶に鮮明に残っています。また、1921 年の夏にインスリンが発見されて本年度で 100 年を閲したインスリン製剤は、その誕生直後から 1 型糖尿病への劇的な効果が確認され、爾来、瞬く間に広く臨床に供せられるようになり、数多くの患者さんに福音をもたらしていることも特筆に値します。このように、新薬の開発が疾患の治療に大きなインパクトを与えうることもまた事実でしょう。

最近でも、近位尿細管におけるグルコースとナトリウムの再吸収を抑制する SGLT2 阻害薬や、新たな剤型も含めた GLP-1 製剤など、糖尿病の治療に漸進的な変革を起こしつつある薬剤クラスがいくつかあります。

一方で、開発から 60 年以上を経過した薬剤であり、数々のガイドラインで糖尿病薬物治療の第一選択薬となっているメトホルミンにも、グルコースを便へ排出する作用などの新たな薬理機序が多面的に明らかになりつつあり、古典的薬剤でありながらも間断なく新知見を提供し続ける息の長い薬剤であるともいえます。新しい薬剤は往々にして高価ですが、メトホルミンの薬価は 1 錠あたり 10 円未満という低廉価でもあり、糖尿病治療の基盤薬たりうる薬剤であるとは私は考えています。

日本医師会の多大なご支援を得て遂行できました J-DOIT2 研究では、そのアンケート調査\*において、医療費の経済的な負担が受診中断の理由として挙げられており、そのような点への配慮が必要になってくる場面も多くなってきているものと考えます。冒頭に述べましたように、受診回数の減少は血糖管理の悪化と関連する可能性があり、また、受診中断は糖尿病の重篤な合併症を来しうることも示されています。定期的な通院の重要性を、今後も引き続き喚起していきたいと考えています。

\* 出典：糖尿病受診中断対策マニュアル [http://human-data.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/dm\\_jushinchudan\\_manual\\_e.pdf](http://human-data.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/dm_jushinchudan_manual_e.pdf)

### 3. 高血圧チーム

勝谷医院 理事長 勝谷友宏（J-DOME 研究会議メンバー）

日本高血圧学会・理事ならびに同学会の J-DOME タスクフォース・委員長を務めさせていただいております。昨年に日本高血圧学会と日本医師会が協定を結び、新たに J-DOME において高血圧患者さんの登録を開始させて頂きましたが、これまでにご登録いただいていた先生にも多数の高血圧症例のデータをご報告いただいたほか、新規ご参加の先生にも高血圧、糖尿病患者さんの登録をいただいておりますこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、4300万人と日常外来で最もよく目にする高血圧患者さんですが、コロナ禍で食塩摂取量が増え、運動量が減り、飲酒や喫煙習慣は悪化するというデータも報告されています。さらに、コロナ感染に対する恐怖から受診控え、服薬調節をされる患者さんも散見され、血圧や血糖コントロールの悪化による心血管病の発症や腎機能の悪化が危惧される状況です。日本高血圧学会では、昨年度の第一波襲来時に、一般の方向け、実地医家向けに動画を作成し、日頃感じている疑問の解消、コロナ禍における重症化の予防に役立つ情報を発信中です (<https://www.jpnsh.jp/corona.html>)。例えば、新型コロナウイルスの受容体が ACE2 であることが知られていますが、レニン-アンジオテンシン系阻害薬の使用は大丈夫か、といった疑問にもお応えしております。シドニー五輪の競泳代表の萩原智子さんご出演の簡単体操と合わせて御高覧下さい。

J-DOME は、日本の医療を現場で支える開業医、中小病院の先生方のリアルワールドの臨床情報を収集する非常に貴重なデータベースです。当院では、ご登録いただく患者さんに「日本の患者さん代表としてご協力をお願いしますね」とお願いすると、快く参加していただいております。手伝ってくれている医療スタッフからは「患者さんとの距離が縮まった」「高血圧や糖尿病への理解が深まった」と実際に参加して初めてわかる感想が色々出てきております。

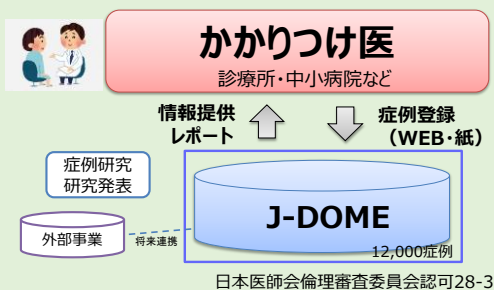
本レターをお読みの皆さまには、地域の周りの先生方にもお声掛けをいただき、J-DOME が日本を代表するビッグデータベースとなり、全国津々浦々のデータが万遍なく集まるようにお力添えを賜れば幸いです。発熱・感染症患者への対応、新型コロナワクチン接種と多忙な毎日が続くことと思いますが、次世代につながる J-DOME へのご支援を引き続き宜しくお願い申し上げます。



### 4. J-DOME アップデート 日本医師会総合政策研究機構 主席研究員 江口成美（J-DOME 研究責任者）

J-DOME は 2018 年に開始し、先生方スタッフの皆様のご協力により拡大してまいりました。昨年より糖尿病に加えて高血圧の症例も対象とし、症例数は 12,000 にのぼっています。わが国では、かかりつけ医の診療データの全国的な集積が限られており、今後も日本医師会として、かかりつけ医の診療支援を目的に推進していく予定です。データを用いてさまざまな要望を国に出していき、国民への啓発活動を行うことも本事業の目的の一つです。新型コロナの蔓延で大変な状況でございますが、引き続きご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。併せて、J-DOME データを用いて研究を実施されることにご関心がございましたら是非ご連絡をお願い申し上げます。

#### J-DOME 概念図



#### <事務局より>

近日中に 2020 年度症例を含めた J-DOME レポートをお送りいたします。

2021 年度も症例登録をよろしくお願い申し上げます。

【連絡先 電話：03-3942-7215 メール：jdome@jdome.jp】

◀ホームページ <https://www.jdome.jp/> ▶

